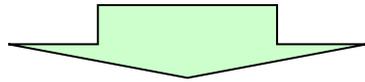


敦賀市（北陸圏・中部圏ブロック）

【計画期間 21年12月～27年3月】

- ・奈良期以降：古くから大陸との交易、北前船の寄港による港町であるとともに、氣比神宮の門前町
- ・明治期以降：鉄道、港湾のある交通の要衝として発展

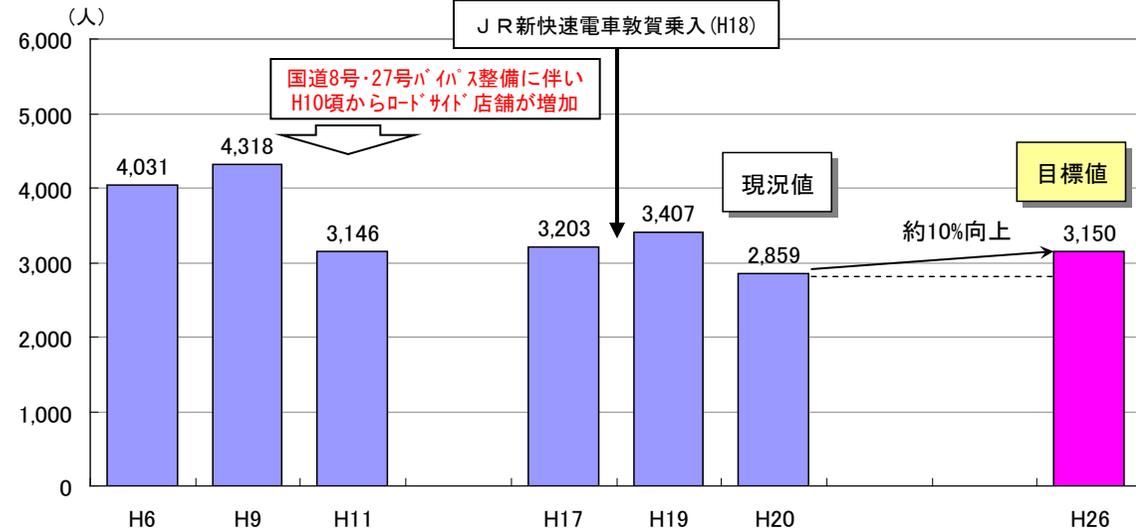
- 郊外部幹線道路沿道における商業施設の立地に伴い、中心市街地が空洞化。
- 観光客数は関西からの新快速電車乗入等により増加傾向にあったが、中心市街地への波及効果は希薄。直近は頭打ちであり、今後の減少が懸念される。



- 観光施設の年間入込客数
H15: 718,300人 → H20: 847,550人 (18%)
- 歩行者・自転車通行量（休日）
H09: 4,318人 → H20: 2,859人 (▲34%)
- 年間小売販売額
H03: 261億円 → H19: 113億円 (▲57%)

目標	指標	現況値 (H20)	目標値 (H26)
敦賀の歴史・文化と新たな魅力が調和した中心市街地	観光施設の年間入込客数	847.5千人	891.9千人
人が行き交い、新たな交流が生まれる中心市街地	歩行者・自転車通行量(休日)	2,859人/日	3,150人/日

【歩行者・自転車通行量（休日・3地点）の動向と数値目標】



■ 酒蔵や町家といった資源を活かした、敦賀らしい歴史・文化が感じられる街並みや観光拠点の創出により、人々が集う中心市街地を目指す。

⇒ 主要事業：①敦賀酒造保全活用事業、②博物館通り景観形成事業、③つるが大漁市場整備運営事業 など

■ 魅力的な商業空間や回遊ルート of 創出、回遊しやすい環境の整備などにより、新たな交流が生まれる中心市街地を目指す。

⇒ 主要事業：④商店街百縁笑店街開催事業、⑤広域連携大学の拠点整備事業 など

敦賀市中心市街地活性化基本計画の事業概要

敦賀の歴史・文化と新たな魅力が調和した中心市街地

舟溜り地区における賑わい拠点の創出

同地区に新たな観光拠点を整備し賑わいを創出することにより、敦賀市への観光客の増加を図るとともに、氣比神宮周辺～敦賀港地区の直線的な回遊ルートと、同地区を加えた面的な回遊ルートへと展開する。

以下の3事業

○敦賀酒造保全活用事業 (①)

江戸末期の木造建築物(酒蔵群)である敦賀酒造を民間事業者が再整備し、レストランや物販、交流施設による集客施設を運営していくことにより、舟溜り地区の賑わい拠点の核として観光客等を誘致。



○博物館通り景観形成事業 (②)

住民との連携により蔵や町家が残る博物館通りの街並みを保存・再生し、歴史が楽しめるまちを創出。

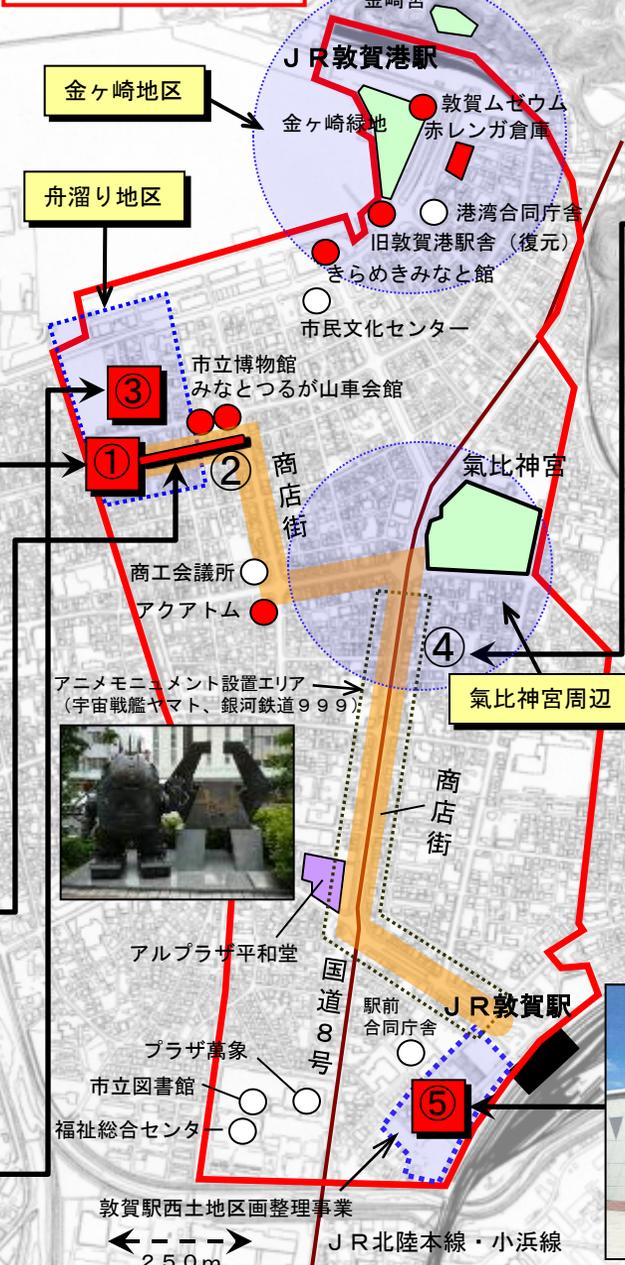


○つるが大漁市場整備運営事業 (③)

新水産卸売市場に隣接した、新鮮で安全な地魚の直販所を整備・運営し、舟溜り地区の集客力を強化。



中心市街地: 178.6ha



人が行き交い、新たな交流が生まれる中心市街地

○商店街百縁笑店街開催事業等 (④)



100円の目玉商品を販売する「市」(写真)の開催や、スタンプラリー等により、個店の販促活動をレベルアップするとともに、アニメモニュメントのライトアップなどのイベント等により、観光客や市民を商店街に誘客。

○市内バス輸送の拡充 (市内全域)



中心市街地へのアクセスや市街地内の回遊性を高めるため、路線バスのコミュニティバス化(市の委託事業への転換)による市内均一料金設定や便数増加などサービス強化を図るとともに、観光周遊バス(写真)の運行など、移動環境を向上。

○広域連携大学の拠点整備事業 (⑤)



福井大学を核に開設する国際原子力工学研究所を敦賀駅前に整備し、敦賀駅周辺の基盤整備とともに、地域とも接点を持つ新たな賑わいを創出。